

はじめに

平成十九年六月二十六日（火）、長岡市の当行本店講堂において、第一〇二期定時株主総会が開催されました。

その席上、野崎國昭頭取から当行の業績について、「不良債権の最終処理を徹底するなか、経常利益は七五億円、当期純利益は五〇億円となった」ことが報告されました。また、「郵政民営化や団塊世代の大量退職の本格化など経営環境のさらなる大きな変化に即応しつつ、『利便性向上』と『顧客保護』に重点を置いた真のサービスをいかに提供できるかが問われている」との環境認識にもとづき、対処すべき課題が示されました。

その後、野崎國昭頭取他取締役四名、監査役一名の退任と、久須美隆新頭取他あらたに取締役四名、監査役一名が選任され、次代の経営の舵取りがスタートしました。

*

当行は、平成十九年十二月二十日に、記念すべき節目としての創業一三〇年を迎えました。

当行がここに至るまでの十年間は、バブル経済崩壊後の構造変化と金融ビッグバン構想などの制度改革、経済・資本のグローバル化等が進展するなかで、金融機関経営が短期間で急速に変化し、対応することを求められた時代だったといえます。

当行においても、折しも創業一二〇年を過ぎた直後から不良債権問題が顕在化し、以後、早急な体質改善や経営資源の選択と集中を迫られることになるなど、この十年間は大きな転換期となりました。

この変革の時期に、経営健全化への道筋を求め、厳しく、きつい^で泥濘^{（ぬいばい）}に膝を没しながら進む^で道程を経

て、今、新たなステージへ出発しました。

*

この「十年のあゆみ」では、長期経営計画の取り組み期間ごとに大きく六つのステップに分け、その時々^の経済状況や制度の動きなどと併せて、当行の取り組みや施策等について振り返ります。



長岡市復興最初の「フェニックス」花火

備考（参考のために）